



蕙讀透閑
三

ル 4
4985
3



門九
號4985
卷 3



舊蹟遺聞卷三目錄

錦木塚

希婦

閑伊

都島

尾駮牧

宇曾利

沖の井

舊蹟遺聞卷三目錄



舊蹟遺聞卷三目錄

淡味池
本殿
信甲
燈籠
中の井

舊蹟遺聞卷第三

錦木塚

錦木塚は今鹿角郡花輪村と毛馬内村との間にあり。その西に
いづれのをたてて。今さうの志す。とせし。と都人さしてむ。う
おと。い。う。を。移。る。男。女。あ。わ。て。錦。木。を。ま。り。か。ど。遠。く。き。よ。り。ま
て。終。は。二。人。と。ん。小。月。と。の。わ。い。の。ば。お。た。り。の。ふ。の。舞。子。と。塚。と。き
つ。き。の。わ。い。を。其。を。この。ふ。き。が。塚。あ。わ。さ。お。ん。こ。ち。む。う。の
ま。ん。志。る。の。手。思。ふ。ら。ぬ。め。を。と。絶。の。た。ぐ。い。あ。く。ま。く。よ。め。い。い
傳。し。事。と。さ。さ。り。を。風。土。記。あ。ど。も。ん。や。ま。の。ま。く。ん。と。諸

舊蹟遺聞卷三

あまうり一のありそのて
奥儀抄よを 灰形本よりふきぎの糸を
きい後はあはけいぬ
浮れがしきぎやのい又新をさるるちりされば糸束と云や
もあれど千束までさるんやいぬ又能因う歌よ

錦本を立ちあがうこお抄よきれ今々の細布むのあそびとや
あれハ色どわける本とも思ひてん私よえけあのも唯あしき
きとりのむのりちりいろどりたるせんそえび
考ま能因うあ抄
とあれがいろど
いそをそとゆれどあのおりよまきとるこくえんねが抄と申まてハ
いろどかちとそそぞと文制返していろどかちとを統るやうわん毎の抄よ云
陸奥よ男女をよむんや抄りよやきせうそをぢやうで新
をこつと日毎よ一束よの女の家乃門よ立るを遠くとおとよ
男の立る糸をぢほぐ船ぐ丸入つれを其後ハ本をバあそび偏

よえきて新しく成あそびと申す男の立る糸をバのよき取
入れ糸バ千束をかきちりふく二年とるなり夫よ新とわい
まよを思ひほのまぬこの本をよきぎやのよみとせとを鉸
糸さとのやうにさるよをどわてたつれをあやせが知つわ
やおほしき人ちやせがまよハせんせねとや錦本といふは
つげいいろもやねよりいげ儀いのぎやきと新初よは新と
こわく一束たのよは後よハまこもささぢこれに錦本とい
ふやいへりまざる義もて新一束と云は厚うと新一束と
いとどささる義あるべのらぢあがほの船一このよいし通
きべ一其実よとせんせぬとのや錦本といふはほけいといふ

いづれをうらべ

後拾遺集卷一

歌志

能因法師

錦本を立取らむこそ朽るるれきまの細布むのあそぶや

詞苑集卷上

堀河院の是時百首の歌をうたるよよめる

大藏の匡房

おろいふ縁をうらむ初を錦本の子来もまるとまのうら

同集同卷

歌

藤原永實

いづれをうらむ千束朽れ錦本を物こりむるよおろいふ

千載集卷二

題

加茂重保

錦本の子来のかぎわたるあせむるもあそぶるよあそぶる

六百番哥合

初恋

題昭

みきぎは書さへてはあそぶるもあそぶるいふきぎは

大中左歌詠ま志とせ初るもくこそあれ文を添べき事

のハ左陳之能因がさるるのみもみきぎは夷が文を討る

たのわえこれハ法師が袖中抄よる説のいふかきよま
ましなり袖中抄と合せ考へんべしこゝハ文を略せん

老る錦本とてはたのむるの書ざりの印よるあ

らび塚のさかきと書さるるあそぶるあそぶる

とは袖中抄よ書さるるあそぶるあそぶる

らぬるあそぶるあそぶるあそぶるあそぶる

あそぶるあそぶるあそぶるあそぶるあそぶる

さらさらんきこの本那るべし。又まぢうくらぬせいの
 事も、たぐひのほくくきでがさきき。袖井抄は、諾かそれぞ
 こと、もんゆのび、本の奥るるよりあれは、ひのうきふたど、
 いらりぢうたのまきせで、さうらんき、こにかうは男女の
 ちうしひに用る物なり。あれぢ、やせうらり。継子女がこ
 よ、ゆで、えん、せん、とん、かま、らり、より、目よはく
 づく、勢、む、と、後、ま、さ、ぢ、ち、あ、ぢ、り、深、系、あ、ぢ、り、か、ぢ、
 ぢ、あ、ぢ、り、せ、う、た、る、べし。さ、あ、り、より、ち、ぢ、ぢ、り、こ、ち、き、
 り、ひ、本、の、な、と、れ、い、ら、ぢ、ち、あ、ぢ、せ、う、り、い、け、ぢ、れ、く、
 の、通、り、る、し、錦、本、と、ま、い、ひ、つ、つ、

 此のきく、おふる、さう、あり、
 後、よ、ま、り、く、あ、る、ハ、せ、め、つ、の、あ、り、

さうば、必、この本なるべし。お、ほ、せ、狂、その、ま、本、あ、ぢ、に、ん、を
 用、する、人、より、よく、尋、て、定、め、る、ほ、し、き、り、な、ん、又、考、る、に、本
 居、宣、長、が、書、玉、勝、る、よ、上、古、ふ、ち、ん、の、め、ぢ、人、使、と、や、る、ま、は、
 梓、の本、よ、玉、を、付、する、を、ら、せ、せ、使、の、ま、り、と、せ、う、ち、り、
 む、づ、さ、り、使、ひ、こ、い、ち、ぢ、あ、の、り、あ、り、ま、よ、り、う、は、く、せ、う
 そ、こ、文、を、ん、同、く、玉、持、ど、い、ち、ぢ、と、え、ら、り、この、説、よ、れ
 を、古、ち、神、も、こ、ま、き、ん、よ、物、を、ち、り、又、人、よ、物、を、お、く、ち、又、文
 う、こ、ち、ぢ、を、お、く、る、よ、ま、き、多、く、本、よ、け、を、こ、る、より、古、き、文、よ
 を、こ、え、ら、り、ま、く、て、古、り、る、ハ、か、つ、く、田、舎、の、ま、き、或、ハ、詞
 た、ま、ぢ、あ、ぢ、る、こ、と、多、い、れ、だ、其、古、風、の、あ、れ、に、き、ぢ、よ、あ、

いしるあらんや思をるたなり。古き書ばん考合てその證
と一つ二は及あさるまゝにいしる。まづ神佛あるは天
皇あざの物をさる時本に付たり。こゝろ古事記卷上
石屋戸の段。日本紀仲哀天皇紀。延喜内藏式等
いしるなり。又人ノ物をおくり。よ本に付るこゝろ。清
小細言お枕草紙定考釋奠あざのりくとおくる條。又後撰集
秋下の詞書。古本伊勢物語源氏物語紫の巻。同く御幸
のまきおよえ。本と使のまき。おせし。古事記下。石
上穴穗宮の天皇の條。又日本紀安康天皇紀およえなり。
本或あまよふをけけくおくる事ハ。古今集五詞書。

後撰集秋のとり詞書。大和物語。又源氏物語梅がえのまき
いしる。まよふ本或あまよふをけけくおくる。ハ。紫の巻。物語
むれむら。まきのまき。又枕草紙。よ清小細言。おかき。のむら。ハ
郭公のまき。のり。たり。一條。又後撰集。五。同。五。詞書。源氏
物語。夕。秋のまき。同。賢。本のまき。同。順。慶のまき。およえ。なり。
た。かく。上古。古。神佛。あざ。の。物。を。さる。まき。人ノ。物。を。おくる。
おん。本。に。付。たり。ハ。お。文。を。さ。ん。は。は。る。事。と。あ。り。たり。
む。その。ま。り。と。あ。や。付。る。事。ハ。お。ま。き。ハ。か。あ。り。づ。い。づ。れ。の
本。と。ん。定。め。づ。お。よ。つ。け。ある。花。の。ま。き。あ。ざ。の。付。く。ま。ん。を。ん。
を。文。を。ま。き。お。よ。ふ。ま。き。ハ。興。と。せ。し。や。り。む。む。の。ま。き。

夫木集

中務々流子

思へるに言ふのさ布の麻衣きくも逢ふぬむのくさ

新古今集

光俊朝臣

とせよあるもまれなる奥布のともひけれハむのたのあ宛

堀河院百首

仲実朝臣

ろぢややくれせば布もつて逢ふともねあぬをこれ

袖中抄

知ふのさなる垣ねをさるこの誰かあきくはれ布を

夫木集卷二 卯花作塙

らの心ろ垣孫なまら山裾のさ門ききさくはれつれを

後拾遺集卷二 歌三十九

能因法師

あきくはれつれをさるこの誰かあきくはれ布を

夫木集

俊成々

錦木の子葉のさあもきくはれつれをさるこの誰かあきくはれ布を

題林抄

陸奥のさあもきくはれつれをさるこの誰かあきくはれ布を

東鑑よ文治五年九月十七日

清衡以下三代堂舎と
造立もといふ條よ希婦細

布二千端ゆりえ又同書よ文應二年二月廿日士

子鶴岡の八幡宮より
仁王會行ふ條よ佛布施出羽緞百匹誦經物百端講師

略文 絹裸物一納奥布三端云々

袖中抄云。希婦の細布とハ。陸奥より出せるせきき布あり。せ
むくれバ狭布と云く。聲よりして訓て訓よむ。ぬのよむ。むこ
と云く。又同抄に云名抄よき。このけしの細布と云く。陸奥よき
の毛し織たる布形也。おほのぬののよきぬのなれば。
機張もせきき。短うなれば。うへよき。半ハあくる。小袖か
このやうに下にきる形也。されバ臂舟をのめかくして。むのま
下か。らぬよりをよむ。あわえ。

考る。延喜式。陸奥調。廣布廿三端。自餘輸狹
布。采穀。庸。廣布十端。自餘輸狹布。又同書。望
陀布。長四丈二尺。廣二尺八寸。廣布。益。三丁成端。畧。狹布二丁成

端。長三丈七尺。廣二尺八寸。又日本逸史。大同五年春癸巳。太
政官符應。陸奥國。淳浪人。準土人。輸狹布。事。右
當道觀察使。正四位下。兼陸奥出羽按察使。藤
原朝臣緒嗣奏狀。稱。陸奥守從五位上。勲七等
佐伯。宿禰清峯等申云。件。淳浪人。共款云。土人
調庸全。輸狹布。至于浪人。特進。廣布。織作之勞。
難易不同。齊民之貢。彼是為異。望請。一準土人
同。進狹布者。國司檢察所申。有實。但黑川以北
奥郡。淳浪人。元來不在。差科之限者。臣商量。此
國地廣。人稀。邊寇難防。不務懷集。何備。非常。伏

身も今、郡の名をあら。志波村も郡の名としてなれば、
閉村もさる類いあるべし。其郡とありて、いつたのわら
とん考ひとも、南紀乃内、閉伊十段左衛門尉光頼、
とこのの宣旨のとも侍りて、既郡といつて、年号ハ
て考べし。ねど、其宣旨の文左のごとし。
任、宣旨状、早、可令領掌之状如件

正月廿一日

閉伊十郎左衛門尉光頼法師法名代子息親
先謹言上、欲早下賜安堵國、宜備龜鑑陸奥
國閉伊郡内、呂木、閉河、多久、佐利、小山、田、閉

嶮赤前以下地頭職間事。

副進

一通 讓状

一卷 御下知

大於彼、下、若、為代、相傳地、覺實任讓状、御
下知、旨、尚知行、上、下賜安堵國、宜、為備永
代、龜鑑、恐、言上如件、か、の、ご、と、ゆ、れ、は、
の、ひ、ち、を、や、く、郡、の、名、を、な、り、と、な、れ、し、也。

おきのぬきとやとよよのきりきり都島ぐのぬれあかり
おきのぬきとやとよよのきりきり都島ぐのぬれあかり
伊勢物語よ。むらみちのくま男女きりかたととこお
いたんときこの女いふ那うて馬のをぬむととせん
とく沖の井敷をぬいしととらまへ酒のをせとよめる。
おきのぬきとやとよよのきりきり都島ぐのぬれあかり
老るよ沖の井敷とまを同くおぬるこころこがひなけ
のぬれあかりとやとよよのきりきり都島ぐのぬれあかり
おきのぬきとやとよよのきりきり都島ぐのぬれあかり
おきのぬきとやとよよのきりきり都島ぐのぬれあかり

おきのぬきとやとよよのきりきり都島ぐのぬれあかり
伊勢物語よ。むらみちのくま男女きりかたととこお
いたんときこの女いふ那うて馬のをぬむととせん
とく沖の井敷をぬいしととらまへ酒のをせとよめる。
おきのぬきとやとよよのきりきり都島ぐのぬれあかり
老るよ沖の井敷とまを同くおぬるこころこがひなけ
のぬれあかりとやとよよのきりきり都島ぐのぬれあかり
おきのぬきとやとよよのきりきり都島ぐのぬれあかり
おきのぬきとやとよよのきりきり都島ぐのぬれあかり

おきのぬきとやとよよのきりきり都島ぐのぬれあかり
伊勢物語よ。むらみちのくま男女きりかたととこお
いたんときこの女いふ那うて馬のをぬむととせん
とく沖の井敷をぬいしととらまへ酒のをせとよめる。
おきのぬきとやとよよのきりきり都島ぐのぬれあかり
老るよ沖の井敷とまを同くおぬるこころこがひなけ
のぬれあかりとやとよよのきりきり都島ぐのぬれあかり
おきのぬきとやとよよのきりきり都島ぐのぬれあかり
おきのぬきとやとよよのきりきり都島ぐのぬれあかり

